



昭和大学病院

検索



昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者 昭和大学病院長 板橋 家頭夫
編集責任者 広報委員長 中村 清吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
TEL: 03-3784-8000 (代表)



就任のご挨拶

昭和大学病院 形成外科 診療科長 くろき ともあき 黒木 知明

2017年10月、昭和大学病院の唇裂口蓋裂センターが昭和大学藤が丘病院に移転され、「昭和大学口唇口蓋裂センター」が開設されました。これに伴い、当教室の診療体制は大きく変わり、主任教授とセンター長以下、多くの医局員が藤が丘病院へ異動し、2019年1月に、私、黒木知明が昭和大学病院形成外科の診療科長を拝命いたしました。以前より所帯は小さくなりましたが、1968年の形成外科開設以来、約半世紀の歴史をもつ旗の台の施設で診療科長を務めることに、身が引き締まる思いです。

今後は原則として、唇裂口蓋裂診療は藤が丘病院に集約して行われることとなります。私どもは主に再建外科に力点をおき、乳房再建をはじめとした悪性腫瘍再建、各種組織欠損再建、重度顔面外傷再建などに積極的に取り組んで参ります。

あなたにとって医療人とは

何よりも、人に対して良心的な姿勢を持つべきと考えます。そして、様々な疾病を抱えていらっしゃる方々のお気持ちに敏感にお応えできるよう、プロフェッショナルリズムを持ちつつも、実社会から遊離しない常識人でありたいと思っています。

診療科の今後の方針

形成外科は、先天性、あるいは後天性に生じた身体組織の形態異常や欠損などに対して、治療を行う診療科です。頭部、顔面から体幹、外陰、四肢末端に至るからだ全体を治療対象とし、縫合法や顕微鏡手術をはじめとする形成外科特有の手術手技を用いて様々な組織の修復、移植、再建を行います。その取扱い領域は多岐にわたりますが、私は、地域医療の中核を担う市中病院での勤務歴が長かったため、こうした診療に幅広く携わる機会に恵まれました。またこの際、鏡視下手術を含む様々な組織移植技術は、悪性腫瘍再建や四肢・顔面外傷再建などに大いに役立ちました。これらの経験を生かし、病院内外からの御紹介、御相談に実用的な解決策を提供できる“使い勝手の良い診療科”になれば幸いです。

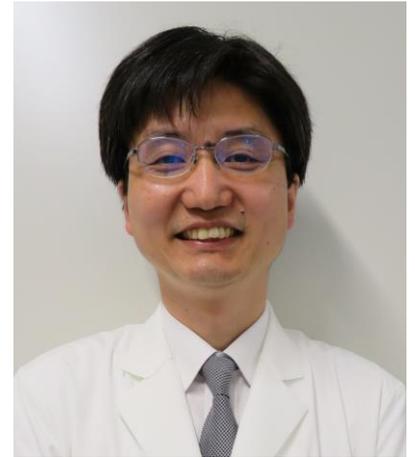
現在、当科の医師は、日本形成外科学会専門医2名を含む8名です。諸事行き届かない面もあろうかと存じますが、今後、人員の質、量を拡充させ、病院内外の皆様の御期待、御要望に幅広く応えられるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



プロフィール

1965年	兵庫県生まれ
1984年	宮崎県立西高校理数科卒業
1990年	佐賀医科大学（現・佐賀大学）医学部卒業
1997年	千葉大学医学部形成外科・助手
2000年	成田赤十字病院形成外科・部長
2011年	昭和大学病院形成外科・助教、医局長
2012年	昭和大学病院形成外科・講師
2013年	千葉大学医学部形成外科・非常勤講師
2016年	昭和大学藤が丘病院形成外科・講師
2018年 4月	昭和大学横浜市北部病院形成外科・講師
2018年 11月	昭和大学病院形成外科・准教授
2019年 1月	昭和大学病院形成外科・診療科長

2019年4月1日から昭和大学病院放射線治療科の診療科長を拝命いたしました、伊藤芳紀と申します。放射線治療は、放射線単独での治療あるいは手術や薬物療法と併用して治癒を目指したり、がんによる痛みなどの症状を和らげたりすることができ、がん治療の中で幅広い役割を担っています。昭和大学病院では最新の治療技術を駆使できる、体の外から照射する外部照射装置と、体の中から照射する小線源治療装置を設置しており、患者さんの状態や治療の目的に応じた放射線治療を行っています。診療放射線技師、医学物理士、看護師とともに多職種チーム医療を実践し、質の高い放射線治療を確実に提供できるように努力していきたいと思っております。



プロフィール

広島県マツダ病院生まれ、広島県育ち（生まれながらのカーブ男子です）

- 1995年 広島大学医学部卒業
- 1995年 広島大学医学部附属病院放射線科研修医
- 1996年 国立呉病院放射線科研修医
- 1997年 広島県立広島病院放射線科レジデント
- 1998年 国立がん研究センター東病院放射線治療レジデント
- 2001年 国立がん研究センター中央病院放射線治療科医員
- 2011年 国立がん研究センター中央病院放射線治療科外来医長
- 2018年 昭和大学医学部放射線医学講座放射線治療学部門准教授
- 2019年 昭和大学医学部放射線医学講座放射線治療学部門教授



好きな言葉

「向上心」

何事も少しでもよくなるように心がけています。

あなたにとって医療人とは

常に患者さんの気持ちを考えつつ、最善の診療を行える人

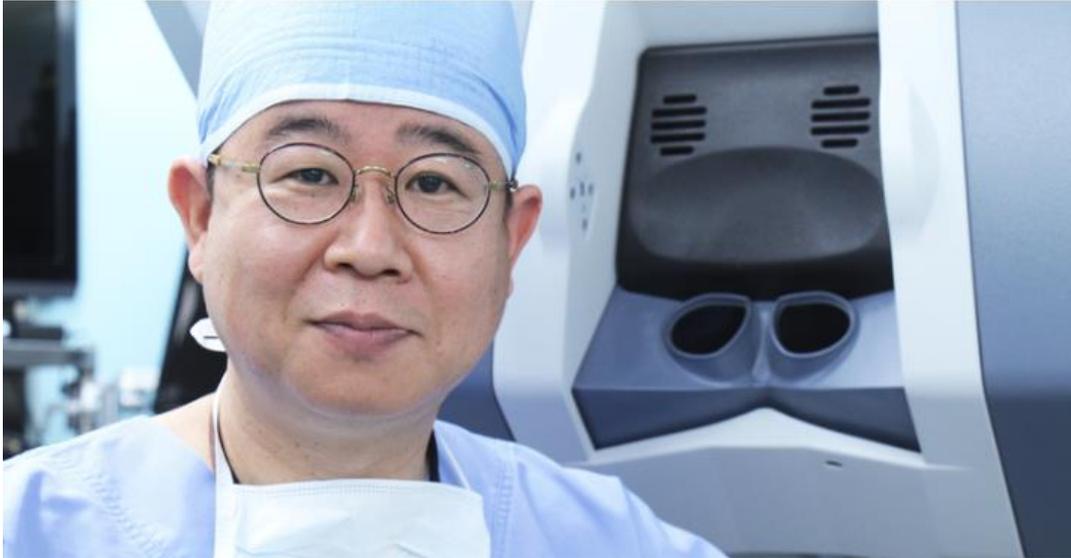
診療科の今後の方針

近年、薬物療法との併用や、より精密な照射ができる高精度放射線治療の導入により放射線治療の効果が向上し、放射線治療を行う患者さんが増えています。今後も患者さん1人ひとりにご納得頂ける質の高い医療を提供できるように、関連診療科との連携を強め、放射線治療部門内では高度の放射線治療を安全に行うために各職種の専門性を活かしたチーム医療の体制を充実させたいと思っております。放射線治療の魅力の一つに臓器・形態の温存があり、喉頭、食道、乳房、肺、肛門などを残せることで発病前の生活の質を保つことができます。患者さんの希望に応えられるように更なる治療効果の向上を目指して治療開発を進めてまいります。

本年秋からは新しい高精度放射線治療専用機器が稼働し、外部照射装置が2台体制になります。昭和、平成に続いて令和の時代においても昭和大学病院で安心して最適な放射線治療を受けて頂けるように、放射線治療部門スタッフ一同、力を合わせてまいります。

「子宮頸がん・子宮体がん」

と言えば **昭和大学病院**



産婦人科 教授 松本 光司(1991年 東京大学卒) 専門:婦人科腫瘍学、内視鏡手術、ロボット手術

初診外来日:毎週火曜日午前

「昭和大学病院では、先進医療・保険診療として手術支援ロボット・ダヴィンチを用いた『ロボット子宮頸がん手術・ロボット子宮体がん手術』を受けることができます。」

(子宮頸がん=厚生労働省認可先進医療)・(子宮体がん=保険診療)

特徴1: **全国で数少ないロボット子宮頸がん先進医療施設**

厳しい先進医療施設基準をクリアした、全国でも数少ない先進医療施設です。

(2019年1月末現在 全国で12施設のみ)

ロボット子宮体がん手術も施設基準をクリアしており、保険診療として行うことができます。

このような病院は都内でも当院を含めて2施設のみです。

特徴2: **排尿機能を維持しやすくなります (子宮頸がん)**

ロボット支援下広汎子宮全摘術では、排尿に関わる神経を拡大視野で確認しながら傷つけずに手術することが可能となるため、排尿機能を維持しやすくなります。

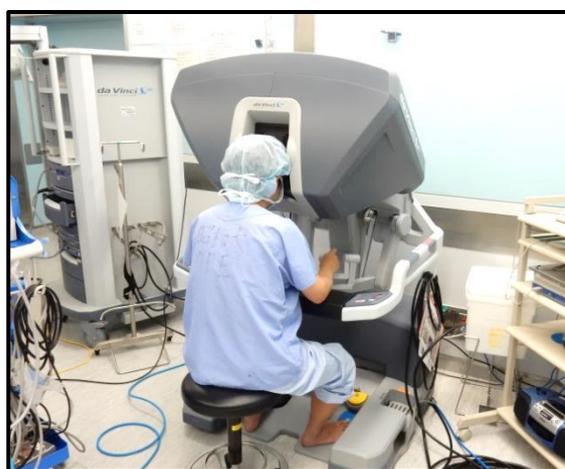
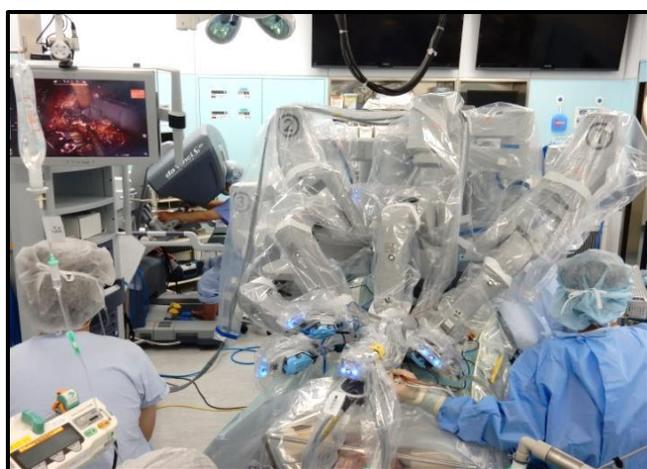
特徴3: **入院期間を短縮できます**

ダヴィンチ手術は身体に最低限の傷しか残さない低侵襲治療であるため、従来の開腹手術と比較して患者さんの身体に優しい、負担の少ない手術です。手術時の出血も少なく、術後の早期回復・入院期間の短縮・早期の社会復帰が可能となります。

ロボット支援下手術（ダヴィンチ）とは何ですか？

ロボット支援下手術（ダヴィンチ）とはアメリカで開発された手術を支援するロボットです。ロボットといっても、自発的な操作をするわけではなく、術者がダヴィンチを介して手術することにより、より鮮明な画像でより緻密な手術ができる特徴を有しています。

- ① **鮮明な3D画像**：3Dカメラで体内を立体的に映し出します。最大約10倍のズーム機能により、患部を拡大視野でとらえることが可能です。
- ② **精密な動作が可能**：3本のアームを術者が自由に操作することができます。様々な形状の鉗子は人間の手と同等以上の可動域があります。
- ③ **手ぶれがなく正確**：手先の震えが鉗子の先に伝わらないように手ぶれを補正します。高い集中力を必要とする細かな作業でも、正確に操作をすることができます。



手術後のQuality Of Life（生活の質）が向上します

・入院期間の短縮

前立腺摘出後の尿道と膀胱との吻合が正確なため、より短時間で尿道カテーテル抜去が見込めます。

・手術後尿失禁の早期改善

前立腺と、前立腺を包む筋肉、特に括約筋の位置を把握し、がんを残さずかつ筋肉を損傷せずに手術可能です。

・勃起機能の温存、早期回復

従来の手術に比べ前立腺を包む、排尿と勃起に寄与する神経をより丁寧に前立腺から剥がして、温存（勃起神経温存術）することが可能となります。

<答えてくれたのはこの方>



泌尿器科 診療科長補佐
森田 順

昭和大学病院では、2010年より前立腺がんに対するロボット支援下手術を導入し、2018年度は50件の手術を実施しています。患者さんご家族に安心・安全な医療の提供を心掛けて診療に取り組んでいます。

開催報告

ボランティア感謝会が開催されました



2019年3月30日(土)に、中央棟7階食堂において2018年度ボランティア感謝会が開催されました。患者サービスを支えて下さっているボランティアの充実を図りたいと思い、昨年度より感謝会の前に病院でのボランティアの心構えの確認や、ボランティアと病院職員との意見交換の場をもうけました。ボランティアの方々から、感じている事、困っている事、思っているご意見等多数を頂きましたので、これからの参考にさせて頂きたいと思えます。



【当日の様子】

感謝会の出席者はボランティアの皆さん16名と、病院職員から患者サービス向上委員会委員長の血液内科中牧教授、看護部平川次長、入院棟11階石原師長、入院棟7階只野師長、放射線技術部船田係長の5名の計21名でした。

中牧教授・平川次長の挨拶で始まり、簡単な茶話会形式で普段交流の少ないボランティア同士の和やかな歓談がなされました。

表彰式では、患者サービス向上委員会から、活躍頂いている6部門に功労賞として感謝状と記念品が、またご出席頂いたボランティアの方々にも記念品が贈呈されました。

新年号「令和」を迎えるにあたり、病院の診療体制の変更、感染症の猛威、自然気象の極端な変化等で患者さんへのサービスの提供を従来通り行っていく事が難しい時も有るかもしれませんが、院内コンサートの存続、患者図書室の利用環境の拡充、美術展示の維持、園芸活動の人員確保、美容(髪のカット)の回数増など、それぞれの部門で患者サービスの充実を図れるようご理解とご協力をお願いして感謝会を閉会いたしました。

開催報告

臨床研修修了式が開催されました



2019年3月26日(火)、2018年度昭和大学臨床研修修了式が執り行われ、昭和大学病院より36名の臨床研修医が出席致しました。修了式では、各附属病院のベスト研修医の表彰や、昭和大学病院の研修医代表を務めた野口敏宏先生より昭和大学宣言が行われるなど、2年間の臨床研修の締めくくりとなりました。

【当日の様子】



2019年4月1日（月）、昭和大学病院入院棟地下1階臨床講堂にて昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院の新入職員オリエンテーションを行いました。板橋昭和大学病院長、稲垣東病院長の挨拶からはじまり、各部署から病院での勤務における、電子カルテや医療安全、ハラスメントなどの注意事項についての説明がありました。

また、荏原消防署の方々にご協力いただき、屋外での消火訓練・煙ハウス訓練も実施いたしました。最後には、昭和大学病院入院棟17階タワーレストランで新入職員歓迎会を行いました。

今年度は看護師142名、薬剤師・診療放射線技師等のメディカルスタッフ46名の計188名を昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院に迎えることになりました。

【当日の様子】



2019年4月1日（月）～4月5日（金）の5日間、2019年度採用の臨床研修医に対するオリエンテーションを行いました。今年度は38名の臨床研修医が入職いたしました。

オリエンテーション中は、研修システム等の説明や、各部署から研修中に必要な基礎知識についての講習が行われました。最終日は、感染管理部門の看護師、臨床検査技師、事務職員から、一日かけて手技実習の指導を受けました。先輩である2年次研修医も、手伝いに駆け付けてくれました。



【医療安全講義】



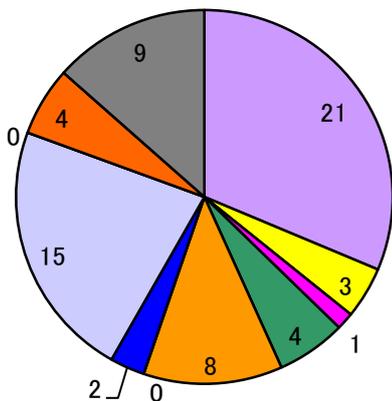
【抗菌薬のグループワーク】



【輸液ポンプを使った実習】

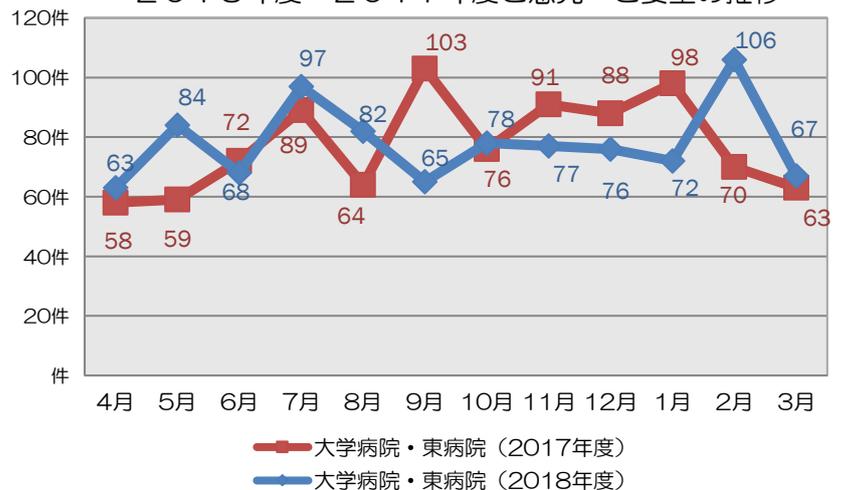
ご意見・ご要望	回答	回答部署
<p>エコーの検査技師が検査の途中ですごい顔をして他の先生を呼びに飛んで行った。しばらく待たされて、他の先生が診てくれたが、「異状はどこ？」という会話をして検査が終了した。その後、二週間後まで結果を待つまでの恐怖を考えてもらいたい。結果は何もなかったが、結果を話せない技師なら、こういう態度はやめて下さい。</p>	<p>この度は、ご不快な思いをさせてしまい、誠に申し訳ございませんでした。今後はスタッフ同士の会話にも十分注意し、患者さんに不安を与えないように致します。当大学病院は、医療技術者育成にも携わっておりますので、何卒ご理解とご協力下さいますようお願い致します。貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>臨床検査室</p>
<p>スタッフの皆様大変お世話になりました。食事が美味しく大変驚きました。</p>	<p>この度は職員に労いのお言葉を頂きましてありがとうございます。このような温かい言葉は我々の励みになります。今後も皆様に満足していただけるよう努力して参ります。 貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>看護部</p>
<p>入院中は大変お世話になりました。先生方をはじめ、皆さんに良くして頂き感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。</p>	<p>お褒めの言葉、ありがとうございます。これからも引き続き、良い診療をご提供できるよう努めて参ります。 貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>一般外科・消化器</p>

2019年5月掲載分
ご意見・ご要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
67件



- 態度・接客
- 診療内容
- 予約
- 待ち時間
- 食事
- 会計システム
- 売店
- 環境(清掃・設備備品・エレベーター)
- 環境(駐車場)
- 感謝
- その他

2018年度・2017年度ご意見・ご要望の推移



ご案内

院内コンサートを開催します

昭和大学病院 第93回 院内コンサート

日時：2019年5月25日(土)

時間：17:00～17:45

場所：昭和大学病院 中央棟 1階ロビー

出演：エンジェルマミー(コーラスとピアノ演奏)

開催案内

第1回医療連携の会(医療従事者対象)

『第1回昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院 医療連携の会』を下記の日時に開催いたしますので、是非ご参加下さい。

1. 日時 2019年6月29日(土) 17:00～20:00(受付16:30～)

2. 場所 上條記念館「4F 赤松」「B1 富士楼」(昭和大学病院附属東病院前)
品川区旗の台 1-1-20

3. 次第 1)『昭和大学病院における食道癌治療チーム』

食道外科 教授 村上 雅彦

2)『喘息治療の進歩～過去・現在・未来～』

呼吸器・アレルギー内科 教授 相良 博典

3) 2019年4月竣工、上條記念館の見学

4. 参加対象者 **医療従事者対象**(一般の方はご参加できません)

※参加をご希望の医療機関は、医療連携室(03-3784-8400)までご連絡下さい。

編集後記

放射線技術部 ^{さとう ひさや} 佐藤 久弥 部長



4月に入り新緑がまぶしい季節となりました。4月1日には新元号「令和」が発表となり、大きな関心を集めました。5月1日は新時代の幕開けです。多くの方が、新しいことへの挑戦を希望していることと思います。

さて、昭和大学病院においても、新入職員の活気ある挨拶や「頑張るぞ」という意気込み、さらに周りを明るくしてくれる笑顔が輝かしく見えます。新入職員の起こす新たな風が、病院内の環境を今以上に変わってくれることと思います。

昭和大学病院・附属東病院の理念

- ・患者本位の医療
- ・高度医療の推進
- ・医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- ・患者さんと共にチーム医療を実践する。
- ・特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- ・教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- ・人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・ご要望につきましては、メールアドレス：taylori@ofc.showa-u.ac.jpまでお願いいたします。

病院広報委員会委員： 稲垣 克記、大嶽 浩司、岡崎 靖子、五藤 哲、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、鷺見 賢司、富田 英、中村 清吾、樋口 恵子、水庭 隆史、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡(50音順)